

令和3年度第2回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

- 日 時：令和3年2月27日（日）午前9時～15時40分
- 場 所：太白区役所4階第1会議室及び第2・第3会議室
- 出席委員：本田茂委員長、笹崎久美子副委員長、岩間友希委員、岡部邦彦委員、佐藤浩委員
- 事務局：山田まちづくり推進部長、那須野まちづくり推進課長、千葉地域活動係長、佐藤地域活動係総括主任、稲舟地域活動係主事、佐々木地域活動係主事
- 会議内容：次のとおり

1 開会

委員長から開会のあいさつ

2 第1回議事 【非公開】

議事録署名委員を指名した。

- (1) 評価基準・採点方法について説明
- (2) 助成予定額について説明
- (3) 申込事業の概要説明について説明

3 まちづくり活動助成事業に係る事業計画説明会 【公開】

- (1) 開会
- (2) 事業計画の説明及び質疑応答

※ 新型コロナウイルス感染症対策の観点から各申込団体は入れ替え制で説明したため、説明会の進行や採点方法、選考結果の発表時期等については団体毎に個別に説明し対応。

①「一般財団法人ながまちマチキチ」による事業計画説明及び質疑応答

事業名：ながまちSDGsプロジェクト

事業概要：長町商店街の店舗で実施されているSDGsの取り組みについて、どのように実践されているのかを学生が調査し、その結果をポスターにまとめ、長町商店街や地域の方々に発表・展示する。これにより、地域におけるSDGsの認知度を高め、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいく。

質疑応答：《委員》「商店街」には、本当に大事なところでまちづくりに頑張っ  
てほしいと思う。

「商店街」をどうにかしていきたいという思いで「ながまちマチ  
キチ」さんを結成したと思うが、学生が関わることで商店街も変わ  
っていくことも期待していると思う。

今回の企画は、学生が自主的に活動していく3年間を作ることが  
目的か。「商店街」と「学生」と「マチキチさん」のこれからの関係  
性が生み出すものとは何かお聞かせ願いたい。

《説明者》後継者不足や空き店舗が目立ってきている長町は、学生  
の利用率が非常に多いのに学生にとっては通過駅になっているの  
で、学生が歩く機会を作り、いかに地域とコミュニティの柱を繋い  
でいくか、が商店街（の役割）だと思っている。

若者目線を含めたいろいろなかかわり方をすることで今後の街を  
考えられるような商店街にしていきたい。

この事業の最終的なゴールは、学生が主体的に動いて地域課題と  
商店街とのかかわり方を自分たちで見つけることである。

《委員》「プレゼンテーションが抽象的で、何がどうなるのかがわか  
らない。」「学生さんには非常にメリットがあるが、商店街へのメリ  
ットがあまり感じられない。」という感想をどのようにお考えか。学  
生ありきで始まっている印象と、学生さんの説明から入っているの  
とで、従来まちづくりとしては逆じゃないかと疑問を持った。

《説明者》商店街ありきでスタートすると時間がかかり、なかなか  
物事が進まないのので、最初の環境整備を学生にしてもらうことにポ  
イントを置いた。内容が抽象的だという部分についても一度説明  
すると、学生が商店街を歩いて店主とSDGsを接点として交流す  
ることで、商店街の活性化につながっていくことを目的とした。

《委員》学生が店主に「この店舗はSDGs何番」かをヒアリングし  
て番号入りのポスターを作り、そのポスターを配付するという活動  
か。

《説明者》そのとおりである。商店街は自分の店舗が「何番」だ  
という意識がまったくない。学生に「これは何番」と見つけ出して  
もらって店頭に掲示することによって「ここは何番の活動をしている」  
と見てわかることで、いろいろな交流が生まれるきっかけになると  
思っている。

《委員》理解した。イメージできた。

《委員》あすと長町に大型施設が林立してきたことで長町の3商店の課題が色々出てきていると思うが、それをどのように捉えて活性化するのか。長町の3商店街には、こういう企画を検討しているとコミュニケーションを取ったうえで本日参加しているのか。

具体的にはどこを目指すのか。

《説明者》商店街との連動については、私自身が商店街の事務局の仕事もしているのでもそこを通して進めている。大型店舗から見えてくる商店街の課題については、大型店舗にも大型集客施設にも車で来て車で帰ってしまい、歩いてもらう機会がなくなってきていて目的だけのために長町に来てそのまま帰ってしまう（ことが課題である。）ゴールは「まちを歩いてほしい」「そのきっかけになってほしい。」「そのために学生の力が欲しい」「学生にいろいろ考えてほしい」である。

《委員》地域の商店の方たちに自分たちのSDGsを気付いてもらう活動をするには共感する。

学生が、特にSDGsというテーマのときに、アウトプットが紙に限定されているということが、動機作りに繋がるのかどうか。そもそも歩かないのに紙が店頭に掲示されているだけだと、この活動に関わる学生さんにはきっかけ作りになると思うがそれ以外への周知が弱いのではないか。学生が得意なSNSで広げてもらうなどの構想はあるのか。

《説明者》SNSで発信してもらうのは念頭に置いている。学生にSNSだけではなく紙が必要で、(紙とSNSの)ふたつがかみ合わないといふとだめだと指摘された。SNSありきで紙を強調させてもらった。

《委員》収支予算書の中で事業予備費とあるが具体的にはどのような費用か。

商店街の人が(自身の)SDGsが何番なのかを知ったら何ができるのかという提案書を、学生が作成することを一年目のゴールにし、二年目三年目にその提案を生かして商店街が学生に何かしていこうという形で発展していくと、学生も自走でき商店街もSDGsをきっかけに変わって、まちづくりという観点から活動がリンクしてくる。助言ではあるが、もう一度やり方を検討してみたい。

《説明者》予備費とは、ここに当てはまらない費用を想定している。

見えてない費用がまだあるので予備費に余裕を持たせた。

## ②「さかいの地区創生会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 秋保・さかいの村のふれあい体験交流事業  
～里山の体験イベントを通じた交流活動～

事業概要：秋保・境野地区において、地域外住民が参加するイベントを開催することにより、地域の魅力発信の機会を創出するとともに、交流人口の拡大や若年層の移住・定住を促進する。また、地域資源である森峯山や旧街道等の整備を通じて、新たな資源の発掘を行い、さらなる魅力創出と地域住民の誇りの醸成を図るほか、産直市を開催し、観光者等に地元の野菜等をPRする。

質疑応答：《委員》中山間地域の里山の魅力を発表しながらゲストの交流をしてふれあいをしていくというようにとっても有用な活動していると改めて感じる場所である。

子どもたちがいろいろな活動を通して命の大切さを学んでそれを大切に心に置きながら育っていくということはやさしい心を醸成していくことに繋がるので素晴らしい活動だと思う。

秋保以外の団体との連携が可能と書いてあるが、教育委員会や子ども会と連携しながらさまざまな子どもたちとの交流を執行していくのであれば、最後の目的にも大きくつながっていくのではないかと思うので、都市の方々(などとの交流)をぜひオープンに考えてほしい。

情報発信をどのようにしていくか。

予算書の中で粉砕機リース代とあるが、どんな機械でどんな機会に使われるのか教えてほしい。

《説明者》粉砕機というのは、森峯山の竹林の竹を粉砕して竹の粉にするもの。機械がないとなかなか大変な作業になる。特殊な機械なので(リース代が)一日十万円以上する。現在はだいぶきれいにしたが、残っている竹や雑木などもきれいにして、できればそのきれいになったところに(竹の粉を)敷き詰めたい。

去年参加いただいた芋苗の植え付け収穫体験というのは、街なかの親御さんも含めて体験したことがないらしく好評だったので、もっと発信して呼びたいが、限られたメンバーの中で主体的に動けるのは(メンバー数を考慮すると)10家族程度が限界である。ほかの団

体と連携しながら、こちらが場所を提供してアドバイスしながらやっていきたい。

情報発信については「さかいの産直市」のホームページの中に創生会の活動全体を掲載しながら、(ホームページを)情報発信のツールとして活用しようと考えている。

《委員》写真を見ると参加しているみなさんが楽しそうで、楽しさを通して有益なことを伝えていっているのだと伝わってくる。会員負担金と記載があるが会則には会費の規定がなかったが、だんだん盛り上がっていると見えるので、参加する家族の方から賛助のお金をいただく仕組みを今後考えているのか今後の展望を教えてください。

《説明者》予算書に会員負担金と書いているが、内容は JA 女性部がやっている「さかいの産直市」を設営する手数料である。細々とやっていくくらいで、活動の原資はそれ(会費負担金)しかない。

参加費については会の中で議論したのだが、気軽に参加してもらいうえでは 2,000 円くらいが妥当だと考えている。飲み物等の内容を考えると 3,000 円でもいいかとは考えているが、今後バランスを見ながら考える。賛助会員について今は期待できる目途はたっていない。

《委員》農泊もしているので規模は違うが、似た活動をしている団体が最近 NPO 法人にして、賛助会員を一気に 90 人とかに増やしている。この内容自体は、子どもにも子どもを育てる親御さん世代にも共感を得る内容なのでインストールしてほしい。

《説明者》了

《委員》産直市は重要な収入源だと言っていたが、支出の部に産直市の運営費が載っているの、収入の目安があるなら収入の部にも載せたほうがいいのではと思うが、どうか。別会計か。

《説明者》会員負担の、実質的に産直市の売り上げ費を、自己負担分として活用して会費の運営の費用になっている。産直市の収益も少しずつだが上がってきているし、いろいろな形で収益を上げる努力は毎年しているが大幅な収益にはならない。イベントや人を増やせば経費が膨らむので、今後の課題でもあるがバランスを見ながらできる範囲での運営にしていきたい。

《委員》会員負担金という文字から一人一人が会費を出すのかと思

っていたが、産直市の収益もこの中に含まれる、という認識でいいか。

《説明者》了。様式に合わせて作成した。

《委員》産直市は何度か行っているが、JA 女性部の人楽しくて仕方がないのが伝わってくる。地域の人まとまって楽しく活動しているのが素晴らしいと感じていた。

この事業は基本的に三箇年あるが、1年目に調査や取り組みをして、2年目でその結果を生かしての取り組みをして、3年目は助成金がなくても活動を継続していくための仕組み作りや新たな挑戦をしていくなどの、助成金をうまく活動とリンクしていけばいい。そういう視点で今後も計画を考えてほしい。

「住む人を増やしたい」「里山の名所である桜を知ってもらいたい。」という思いが会を作ったルーツと聞いているが、花見のイベントや都市部の方々に境野を知ってもらうような構想があれば教えてほしい。

《説明者》今年の計画書三つ目の「歴史と民話のルーツを探る体験イベント」は今年初めての事業である。整備されたら散策をしたという地域の声から企画した事業で、境野地区に民話のルーツや史跡があるのを知ってもらいたい。委員からのアドバイスも念頭に置きながら活動を継続していきたい。世代交代を考慮しながら継続していけるような工夫もしていきたい。

### ③「八木山地区まちづくり研究会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名： 住民参加を促す地域イベントの創出

事業概要：八木山地区において、LED ライトを活用したイベント等を開催し、住民には見に来るだけでなく、LED ライトの設置に参加する等、主体的に参加・活躍できる環境づくりをすることにより、地域との関連の薄い若年層や子育て世代が地域づくりに積極的に参画する機会を創出するとともに、地域づくりの担い手となる若者世代のネットワーク形成を図る。また、近隣町内会や団体等との協働により、地域全体の活性化に繋げる。

質疑応答：《委員》イベントにスタッフがいないというのはすごい。

出演料に 22,000 円とあるが、こういった出演なのか。

《説明者》集まって見るだけだと 30 分で終わり飽きるの、地域

に関連があるアーティストに来てもらう。3,000円×6時間と2,000円、地方復興税10.21%で22,000円である。昼夜に出演する人には1.5倍の33,000円である。

《委員》イベントにゲストを呼ぶイメージか。

《説明者》地元で眠っている人たちに来てもらう。新たなマーケットも作れるし繋がりもできる。

《委員》まちづくりの主役の方々が高齢になってきて動く人は限られていることを考えると、若い人たちを参加させるには「活動が夜で仕事が終わった後に来やすい」「短時間で終わって負担が少ない」ということがコツなのかと思っているが、さらに今後若い人たちをまちづくりに巻き込んでいくにはどんな工夫や要素が必要か教えてほしい。この取り組みをどう太白区に広めていくか教えてほしい。

《説明者》イルミネーションの話(例に)すると、設定に15分撤収に15分かかるが1,000灯が一気になくなる。手で動かして自分がやっているということが楽しいので(次は)光のやつを見せにこよう、今度はうさ耳をつけてこようとなり、それを互いに撮りあい投稿する、仲間内で広げると地下鉄駅や日赤や市民センターで飾られる、というルーティンが生まれてくる。

太白区では、来年度もやるなら秋保や坪沼でもやりたい。

各場所で周年事業があるが、今は会食もパーティーもできないので(ドローンで撮影)してあげる。来年度から(撮影には許可がいるが)それも取ってある。簡単にノウハウだけ(教えて)もらえて、共通で使える資材があって、みんなで楽しく並べて、ホームページにアップして・・・そういったやりかたで少しずつやれたらと思っている。

《委員》やりたいこともよく伝わってきた。

アンケートを前の年度から取っているのが素晴らしい。

住民参加を促すという項目が事業に関してあるが「どこから来ましたか？」というアンケートは取っているのか。

《説明者》取った。八木山、八木山以外の太白区、太白区以外の仙台市、仙台市以外といったら半分くらいいろんなところからきている。そういうデータもある。

《委員》素晴らしい活動だからこそ交流人口が動いているのだと思うので、今の段階では太白区全体に広げようというよりは近隣の町

内会にしっかり繋げることが今は重要だと思うが。

《説明者》ノウハウもあるし機材もあると。(いうことを、近隣の町内会には広げる。)そして貸す。例えば今回西多賀さんとやる。来年は西多賀さんがデザインなりやり方を独自に考えて、やる。一緒にやっていく中で、機材を共通化しながらそれぞれの独自性が出てきたら、独立して歩いていけばいいかなと思っている。

《委員》素晴らしい活動を継続していることに感動を得ている。ひとつひとつのことを実践して、その課題を精査して、次の機会に修正調整して発展していくという、後知恵を先知恵に変えて進めていくことを継続しているのが素晴らしい。新しいまちづくりの手法に繋がってきているのかなと感じる。今までの活動ひとつひとつを精査した記録があると思うので、こんなふうにといいよというの(事例)をサポートとして発信して、次の地域と連携していくことでお互い響きあうよう(な活動になっていくとこと)になる。情報を発信していくことができれば、大きな光のイベントに繋がってくると思う。まちづくりイコール人づくりという視点で考えたときに、人と人の触れ合いによる人づくりにまちづくりができてくるのではないかと思うがどう考えるか。

《説明者》組織との連携をどうするか資料に全部まとめた。これからの分も報告をまとめる。こういうノウハウを蓄積していった言語化して冊子にして近隣にも配っていきたい。そういうことで巻末につけた。

#### ④「富沢健康サロン「緑の会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名： わがまち 富沢・西多賀地域住民の健康づくり

“いきいき はつらつ 100 まで元気”

事業概要：高齡化が進む富沢・西多賀地域において、高齡者の関心の高い健康相談会等の開催を通じて、地域住民の健康寿命の延伸を図るとともに、地域との関わりが少ない高齡者などが外出して交流する場を創出し、互いに顔が見える安心な地域社会に繋げる。また、参加を促すために関心が高い健康に関する行事を医療専門スタッフやスポーツ関連団体と連携して運営する。

質疑応答：《委員》和気あいあいといい雰囲気(活動)していると思う。

今後役員支援者を充実させたいとの話だが実際にどのように考



えているのか、今どのような形で増えているのか教えてほしい。

《説明者》4年目以降は自前が条件なので、できる範囲で(活動)しようと思っている。これからの支援者については、必要性がわかってくれば周囲の支援者を探して行って、次の世代の人たちに繋げるよう考えていきたいと思う。

《委員》自ら実践していて素晴らしいなと思っている。他の団体同様、次に続く会員が見つからないことが課題である。少しずつ主役に巻き込んでいくことが大事だと思う。有料講師ではなく緑の会のみなさんの中から好きなテーマで発表してもらおうなど、会費を押さえながら続けてもらいたい。質問というより助言という形で聞いてもらいたい。

《説明者》今後それもまとめて進めたい。

#### ⑤「楽元の森運営委員会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名： 楽元の森活用事業

事業概要：上野山小学校に隣接する「楽元の森」において、地域の資源として活用できるようツリーテラス等の整備や維持活動を行う。また、市民センターやPTA、近隣小中学校等関係団体と連携して、地域の子どもを対象とした様々なイベントの開催により、地域一体となった子どもの育成や地域づくりの担い手の発掘を図る。

質疑応答：《委員》素敵な森で地域にとって必要な活動だとよく伝わる。終了後の活動計画について、地域住民の委員が少なく楽元の森自由開放委員会と楽元の森運営委員会とを発展的合併にしたいとあるが、将来的、具体的に何年くらいで合併したいと思っているか。持続性の観点から質問したい。

《説明者》そんな遠い将来ではなく2～3年で進めていきたいと思っている。山田鉤取地区は、地域の防災訓練を一緒に行っている地域であり、防災拠点のひとつとして森を使っているので、(防災の面での)状況で関わっていききたいし、デイキャンプなどを通して子どもたちを中に取り込みながら、地域との交流にも関わっていききたいと思っている。

《委員》小学校に隣接した形で森が存在するというのはとても素晴らしいことだと思う。事業の目的に「地域向けの多様なイベントの開催・・・」とあったが、森を守る育むという視点が書かれていな

いがどのようにお考えか。

学校の PTA 活動の一環として活動しているのか。

地域の防災の仕組みの話をしたが、健全育成委員会などとの関係性が見えなかったので教えてほしい。

《説明者》以前から森もあって活動もしていて、父兄として関わったときに「これが森だ」と認識したが、もったいないなと思うような状況があった。(自分は)市民センターの行事の企画の中で最初に携わり、その中で活動に関わってきた。PTA として活動すると強制的にしなければならないということに抵抗があるので、PTA の活動ではない、地域活動だ、とずっと(周囲には)話をしている。昨年からは地域の中で独立して(活動)できるようになったので、町内会活動、防災活動として話ができる、という状態になり、活動として広がってきたかなと(思う)。

広報的なことが知られていないことが多い。学校の敷地内にあることによって、「学校の人しか入れない」「卒業すると入れない」と思われていたので、「違う、全員で行こう」と働きかけて広めてきた。近いところにこんな素敵などころがあるのに、気づけなかったのか(と感じる。今は)キツネやタヌキ、ハクビシンがいることを子どもたちに伝えられるようになった。巣箱の扱いかたなどを先生の解説で子どもたち目線で説明してくれてうれしかった。自然や命にまでつながる話を伝える場所かなと思っている。

《委員》：新年度の計画の中で近隣の小中学校とのイベントも始めるとあるが、太白区の財産としてみんなで使えるような形に取り組みれるということはとてもいいことだと感じている。一緒にイベントをするのもひとつだが、この場所を「貸す」という形もある。

(学区が違う人も)使用可能なことを情報提供して、ほかのところが独自にやりたいときに手伝いをするという使い方もあると思う。多くの人たちが利用できるような取り組みをしていただきたい。

《説明者》「私たちの森」ということで活動してきて、呼びかけして近隣の学校にも来てもらった。もう少し活用できるかなと思っている。コロナの影響で吹奏楽の演奏や音楽活動が発表できない、室内でできないなら森の中でやったらいいのでは、と話があってそれを地域に広めつつ、来てもらって一緒にできないかと思っている。

## ⑥「金剛沢緑地愛護協力会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名： だれもが行きたくなる“まち”づくり — 「八木山テラス」構想—

事業概要：金剛沢緑地の南部緑地を地域住民の憩いの場とする「八木山テラス」構想を実現するため、緑地や遊歩道の整備、イベントを地域住民や関係団体等の協力を得ながら実施し、「だれもが行きたくなるまち」づくりの実現を目指した取組みを進める。

質疑応答：《委員》今年度3回目ということで十分内容が伝わってくる。言うことがないくらい素晴らしい活動である。

助成金に頼らずに運営していけるようにしていただきたい。

これからの活動を楽しみにしている。

活動のレベルが上がってきていて「適当に」といいながらも大きな工事になってきているので、事故やケガが心配である。今後の活動は保険や安全について気を付けてほしい。

まちづくりが義務感になってしまっていて事務局の方がたいへんな思いをしているのを見ていると次の人が続かないという問題がある。

「作業中は旗を立てる」「丁寧に便りを全世帯に配布している」などの広報活動が上手だと思っているが、まちづくりに人を巻き込むポイントは何なのか成功要因を教えてください。

《説明者》コツはない。メールで呼びかけて、あとは会長が近所の人を連れてくる。工大さんの力を借りている。助成金の中では賄えないが昼飯を出すようにしている。料理教室をしている人がいるので（昼飯を準備してもらい）、参加したいとの思いに火をつけるというか楽しさもあるから参加したいという気持ちに持っていく。

インターネット広報したり周知したりホームページで広報していったりということだと思っている。

《委員》ダンプ、ユンボと聞くととてもお金がかかるイメージだが昨年の収支を見ると安い。なぜこんなに安くできるのか。

《説明者》無理矢理会員にした造園屋さんにボランティアでしてもらっている。協賛させた。それもわれわれのパワーなのかなと思っている。

《委員》了。

## ⑦「西多賀まちづくり推進委員会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名： 三神峯“桜縁”のさらなる「発信」と『協働』の深化（第2章）

事業概要：三神峯公園において、地域住民が手掛けることが可能な桜の整備を行い、これまで以上の賑わいを創出し地域の活性化に繋げるとともに、樹名板製作や昔遊びと史跡等の学びを通して、次世代を担う子供達と大人（高齢者含む）の「世代間の繋がり意識」の醸成を図る。

質疑応答：《委員》桜という強みがあるので広報は比較的しやすいと思うが、桜がないときの公園を今後どう広めていくか予定はあるのか。

《説明者》春夏秋冬それぞれの季節の楽しむ術がある。

広い公園を使って子どもたちが遊ぶ。

コロナに囚われていて子どもたちを呼び込めなかったが、自然に学校では（利用している。）私たちはそれにそっと寄り添っていく。

広く公園全体を使っていける。

《委員》了。

### （3）閉会

## 4 第2回議事 【非公開】

### （1）評価

- ① 採点の集計結果について報告
- ② 各事業の評価
- ③ 申し込み事業に係る協議
- ④ 各団体へのコメント内容の決定

### （2）その他

評価委員会として協議した内容で決定し区に報告したい。

協議や事業計画委員会で挙げた意見は事務局で取りまとめて申込団体に伝える原案が整ったら前もって確認してほしい。

指定候補事業の助成金案では予算原案は残額がないので追加募集は行わないこととする。

「令和3年度企画事業についての事後評価」にかかる令和4年度第1回評価委員会を5月下旬（5月21日（土曜日）22日（日曜日）28日（土曜日）29日（日曜日）のいずれか）に開催したい。今わかっている日程を確認したい。

本日欠席の委員に確認したうえで、になるが、22日か29日のどちらかで開催する。

## 5 閉会